



『大恐慌の子どもたち』
をいま読むことの意味

2026年3月4日

川浦康至

本日のメニュー

『いま女性は』（自己紹介代わり）

1. 『大恐慌の子どもたち』～完全版
2. 「大恐慌」研究の意義と方法論
3. 「大恐慌」と現代日本
4. ライフコース研究の現代的意義
5. ライフコース研究への期待
6. まとめ

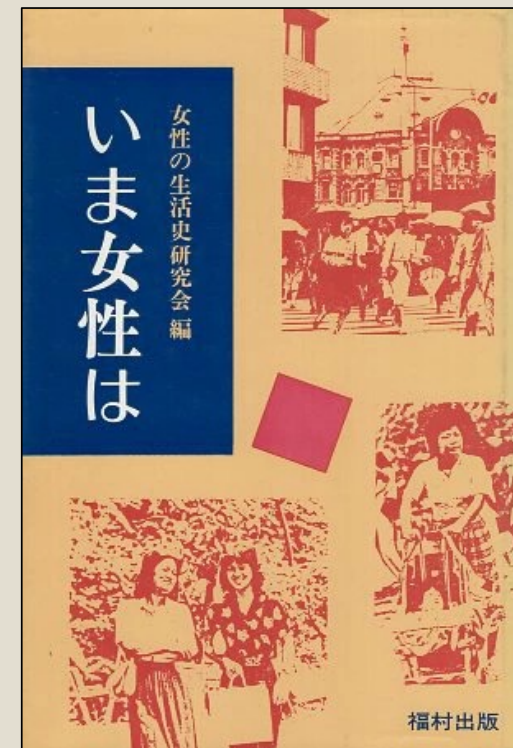
番外：『完全版』刊行その後

『いま女性は』（自己紹介代わり）

まえがき（抜粋）

わたしたちは、毎日の生活の中で女性たちが何を考え、どのように生きようとしているのかを、心理的側面から明らかにし、そこから現代における女性の生き方を考えてみたい。その際生活全体において、しかも時間（時代）の流れの中で人間をとらえようと試みた。つまり現在までの生育歴だけでなく、将来にわたる生活設計を通して人間を知ろうとしたのである。わたしたちは、生育歴と将来の生活設計を合わせたものを、「生活史」とわたしたちは呼ぶ。

1981年8月



同もくじ

1. 女性の生活の移り変わり
2. 出会いから結婚へ（執筆担当）
3. 夫・子・老親と女性
4. 女性にとって職業とは
5. 女性の社会的活動
6. 「女性であること」の意味
付章 女性の生活史を知る

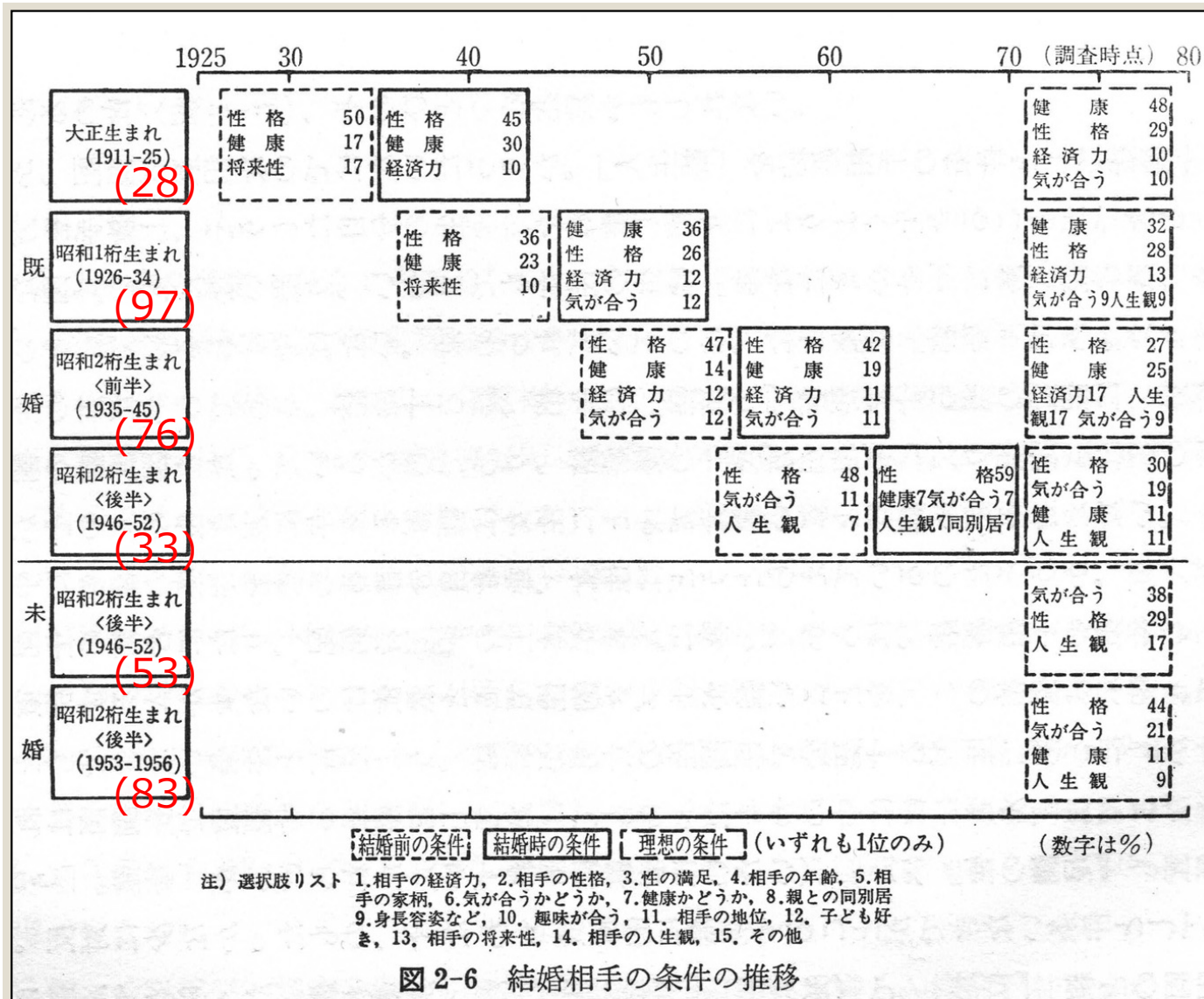
第2章 出会いから結婚へ

第1節 恋愛そして結婚

第2節 結婚する相手

第3節 結婚のかたち

第4節 あらたな関係をめざして



擬似コホート分析の試み

- 結婚前の条件
- 結婚時の条件
- 理想の条件 (調査時点)



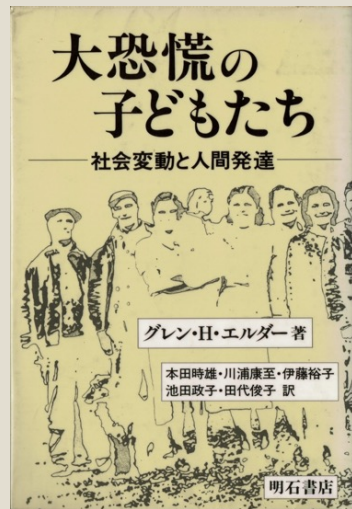
「性格」と「健康」が二大重視項目
「気が合う」が時代が増加

(N)

① 『大恐慌の子どもたち』～完全版



1974

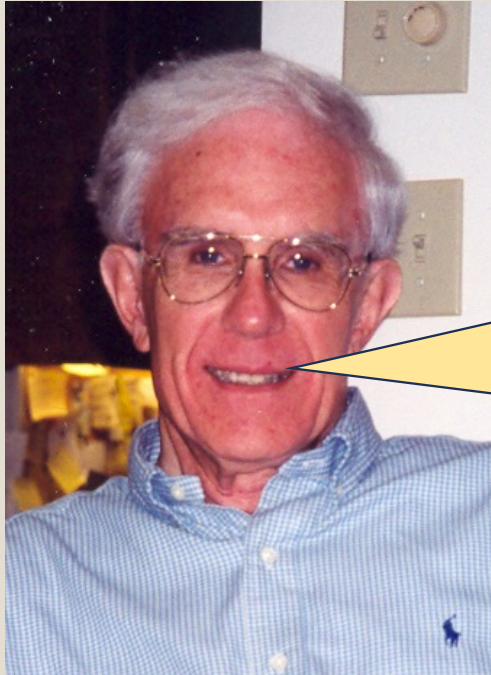


1986(初版)
1991(新版)
1997(新装版)

1978年で一連の調査報告が終わり、その成書『いま女性は』も出版。次期調査立案のタイミングで『Children of the Great Depression』(1974)に出会った。

方法論を学ぶつもりで読み始めたところ本書が膨大な縦断研究であること、家族社会学で注目され始めたライフコース研究の基本書であることがわかり、訳稿作成の読書会に転換。数年後『大恐慌の子どもたち』として明石書店から刊行。

1-1 『大恐慌の子どもたち』とは



Glen H. Elder, Jr. (1934年～)

「人生は、能力や努力だけでも、そして時代だけでも説明できない」。そのことを実証的に示した、この本はいろいろ使えると思いますよ！

(未確認ですが!?)

1-2 大恐慌を想起させた新型コロナ

新型コロナの大流行による社会経済的変動は、国内外で1930年代の大恐慌を想起させた。

『コロナ世代』を癒やせるか (2021/7/13 日本経済新聞朝刊)

コロナ禍の都市封鎖や行動規制は、1990年代後半以降生まれの「Z世代」から多くの機会と経験を奪った。友人との交流や課外活動を制限され、学業や就職もままならない。OECDによると、鬱になった人の割合はコロナ前の2~3倍に増加した。学業の遅滞と中断は人的資本の蓄積も妨げる。もちろんZ世代がみな精神的経済的ダメージを被るわけではない。ネットやSNSで新たな境地を開く柔軟性の過小評価は危うい。大恐慌下、米国の子どもたちには病理と適応の二面性があったと、社会学者のグレン・エルダーは自著で記す。幼少期の経済的困窮は成人後の健康や心理、人生に悪影響を与えた半面、ハンディキャップを埋める努力や自主独立の意欲をかき立てた。(編集委員 小竹洋之)

大恐慌同様、

経済的剥奪の影響には階級差やジェンダー差が見られた

2022年三大都市圏調査で浮き彫りになったのは「新型コロナ・パンデミックがすべての階級に平等に影響を及ぼしたのではなかったことである。もっとも影響を受けたのは旧中間階級、そしてアンダークラス。性別による違いも大きかった（「階級格差を拡大させた新型コロナ」から）。

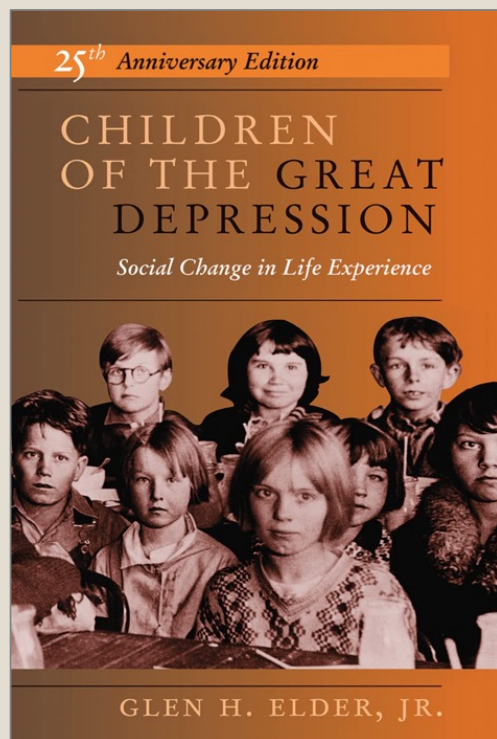
橋本健二 2025 『[新しい階級社会](#)』

1-3 大流行の余波はさらに広がり…

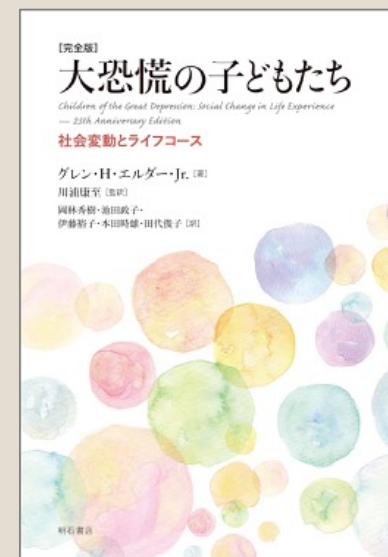
結果として『大恐慌の子どもたち』の出版元への在庫照会を増やした。出版社は当初、再版で出したいとの意向だったが、旧版の見直しと完訳をはたす重要な機会であり、新たな章*が加わった25周年記念版を訳出することに決定した。

*第2次世界大戦と朝鮮戦争が、大恐慌世代とそれより8歳若い世代(1928-29年生まれ)、それぞれのライフコースに及ぼした影響を比較。

Children of the Great Depression: 25th Anniversary edition (1999)



『完全版 大恐慌の子 どもたち』(2023)



② 「大恐慌…」 研究の意義と方法論

「大恐慌の子どもたち」で得られた知見を日本での研究や問題解決にどう生かすか。その前提として、同研究の意義と方法論を概観する。

2-1 「大恐慌の子どもたち」研究の知見

1. 社会（歴史）的出来事の時機効果
2. 経済的困難の影響過程
 - 家庭の効果
 - 社会化の加速
3. 下位集団の構成
 - 家計の減収度（経済的剥奪度 = 35%未満か以上か）
 - 家庭の社会地位（社会階級 = 中間階級か労働者階級）
 - 対象者のジェンダー
4. 教育機会を提供することの重要性
 - 奨学制度（復員兵援護法）による教育機会の保障

2-2 「大恐慌の子どもたち」の方法論

1. データアーカイブの発掘と拡張
 - 非匿名データ（個表）の存在
 - 追加調査の実施
2. 混合研究法の採用
 - 質問紙調査
 - インタビュー調査
 - 場面観察
3. パス（的）解析による過程分析
 - 媒介変数の寄与状況

③ 「大恐慌」と現代日本

1. 世代への注目
 - 丙午生まれ
 - 就職氷河期世代
 - コロナ世代
2. 歴史的出来事への注目
 - 東日本大震災

3-1 丙午生まれ

直近では1966年生まれ

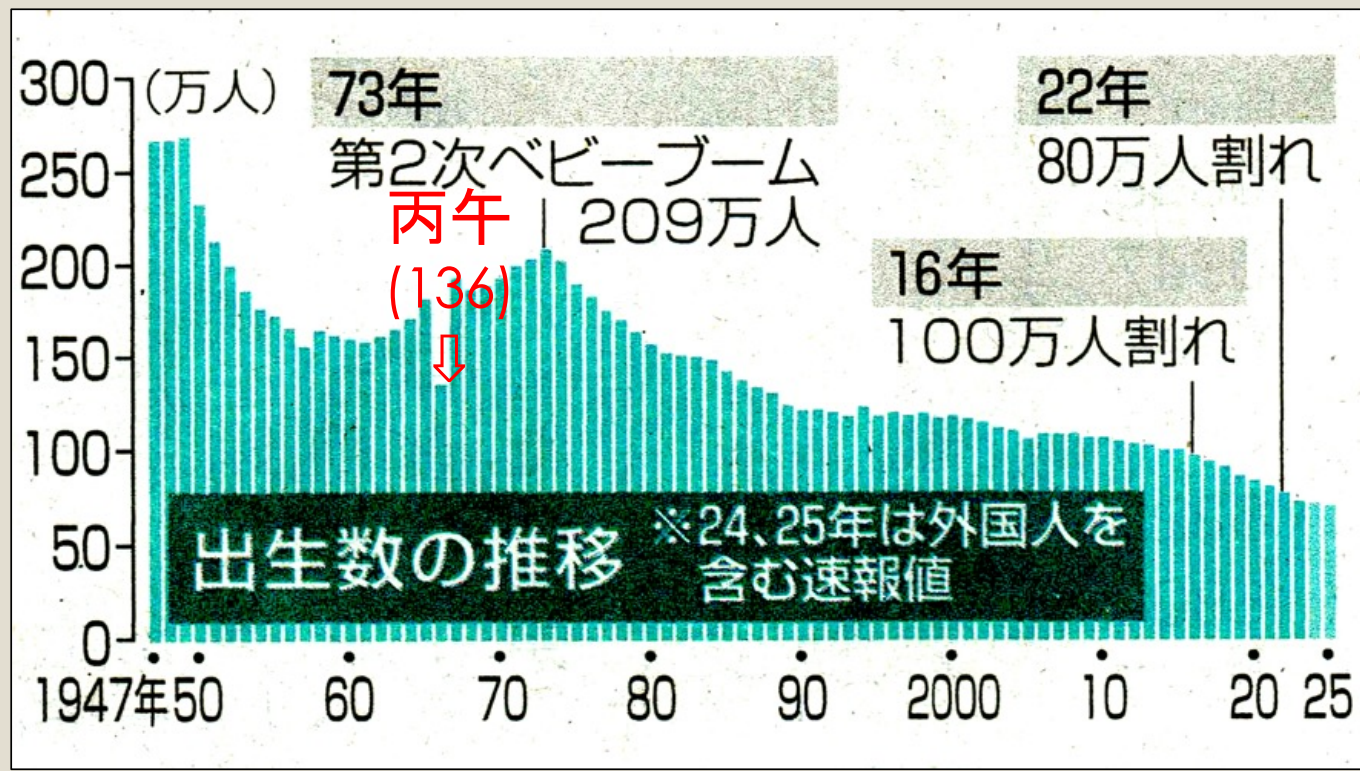
丙午生まれの特徴

- 小コホート
- 偏見
- 機会の不利

酒井順子 2026 『ひのえうまに生まれて』



「政府推計より17年早く」



東京新聞2026年2月26日

25年出生数70万人

10年連続最少更新

人口動態速報値

2025年に生まれた外国人を含む子どもの数は70万5809人となり、統計を始めた1899年以降で最少を更新した。前年から2・1%（1万5179人）減った。厚生労働省が26日、人口動態統計の速報値として発表した。10年連続で最少を更新し、少子化が進む。減少率は前年より鈍化し、都道府県別で東京と石川が増加に転じた。死亡数が出生数を上回る「自然減」は89万9845人で過去最大となり、人口減少にも歯止めがかからない。

45道府県で減2面

ケース：孫（医師65歳）の投書

丙午だから生まれた祖父母の縁

私の祖母は明治の丙午に、房総半島の山中の無医村に生まれました。曾祖父は、「丙午だし、結婚しないでも生きていけるように手に職を付けさせよう」と決心し、祖母を医者にして村に貢献してもらおうと考えたそうです。

祖母は中学の時に東京に出て、勉強に励み、東京女子医専（現東京女子医大）で学び、医師となりました。

医師であった祖父と出会い結婚。その後、旧満州・新京医大（当時）の教授となった祖父とともに海を渡りました。祖父母は終戦で引き揚げ、2人とも開業医として活躍しました。

丙午が祖父母の縁をつないでくれたのだと思います。「丙午生まれはとてモラッキーなんだよ」と今年生まれる人たちに教えてあげたいと思い、筆を執りました。

朝日新聞投書欄、2026年

3-2 就職氷河期世代

1970～86年生まれ、1700万人

=バブル崩壊後の経済低迷期、1993～2004年ごろに新卒での就職が困難だった世代。「自己責任」や「自己選択」にからみとられ、政策的に置き去りにされてきた世代。

近藤絢子 2024 『就職氷河期世代』



就職氷河期世代の不利

- 経済的剥奪
- 長期的不利

3-3 コロナ世代

1998～2016年生まれ

= 2020～2022年のコロナ禍に学校生活や社会人生活初期を過ごした世代

世界銀行「Collapse & Recovery: How COVID-19 Eroded Human Capital and What to Do About It」（崩壊と回復：コロナがむしばんだ個人資本と挽回への道筋）は、当時25歳未満だった人を「幼児期」（0～5歳）「学齡期」（6～14歳）「青年期」（15～24歳）の3期に分けて分析。コロナが子供や若者の認知能と生涯収入を損なわせ、複数世代の将来の豊かな暮らしと経済成長に陰り。（2023年）

ケース1：卒展を終えたある美大生

ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました！コロナ禍から始まった大学生活の中、旅をしながら当たり前前の方が当たり前前に行けることの幸せを改めて感じる事ができました。そんな作品をたくさんの方のみなさまに見ていただき、コロナ禍の自分が報われた気がします。

Instagramでのコメント

ケース2： 「2024卒のみなさん、大学生活は？」

コロナ禍で始まった大学生活が終わろうとしています。卒業を控え、ますます不完全燃焼というかコロナのない大学生活を送りたかったという思いが強まっています。

1、2年はほぼすべてがオンライン授業。新歓なしでサークルにも入らず。メンタルを崩し他人とかかわるのが怖くなったり。バイトやボランティアでできることを探し、就活もそこそこ頑張り、希望する企業に就

職が決まりました。それでもなお、あるはずだった多くの機会を失ったことはつらいです。

11月にノンサーの友達と4年生にして初めて学祭に行きました。後輩たちが楽しそうにしている、「なんか食らうね〜」と言って二人で慰め合いました（笑）。

24卒のみなさん、大学生活はどうでしたか？ なんでもいいので、ぜひ聞かせてください！

Yahoo!知恵袋

コロナ世代の不利

- 機会の剥奪
- 経済的剥奪

新型コロナの影響に関する調査報告の例

国立成育医療研究センター「コロナ×こども」本部 2020-2023 「新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査」 継続的調査

国立教育政策研究所 2021 「新型コロナウイルス感染症流行下における児童生徒の社会情緒的（非認知）能力をめぐる状況：流行初期に関する文献調査」

3-4 東日本大震災

15年前の2011年3月11日（死者・行方不明者 2万2,332名）

1. 生活環境の一変

避難生活、転居、近隣やコミュニティの消失

2. 家族やペットの喪失

3. 失業や経済困窮

→いまなお3万人もの人が避難生活を強いられている

④ ライフコース研究の現代的意義

「大恐慌」研究をふまえつつ、ライフコース研究の現代的意義を考えてみたい。

4-1 ライフコース研究の前提

- 現代日本の状況を確認する
 - 社会階級の現在
 - ジェンダーギャップの状況
- 現代日本の状況を確認する
 - 歴史を知る

4-2 現代日本の階級構成

労働者階級の分化

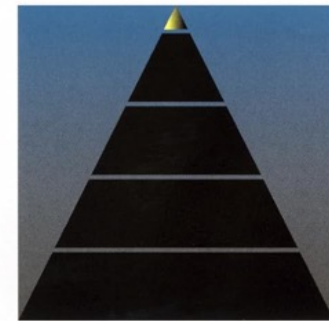
1. 正規労働者階級
2. パート主婦（有配偶の女性、非正規雇用労働者）
3. アンダークラス（パート主婦以外の非正規雇用労働者）

橋本健二 2025 『新しい階級社会』

新しい階級社会

最新データが明かす〈格差拡大の果て〉

橋本健二

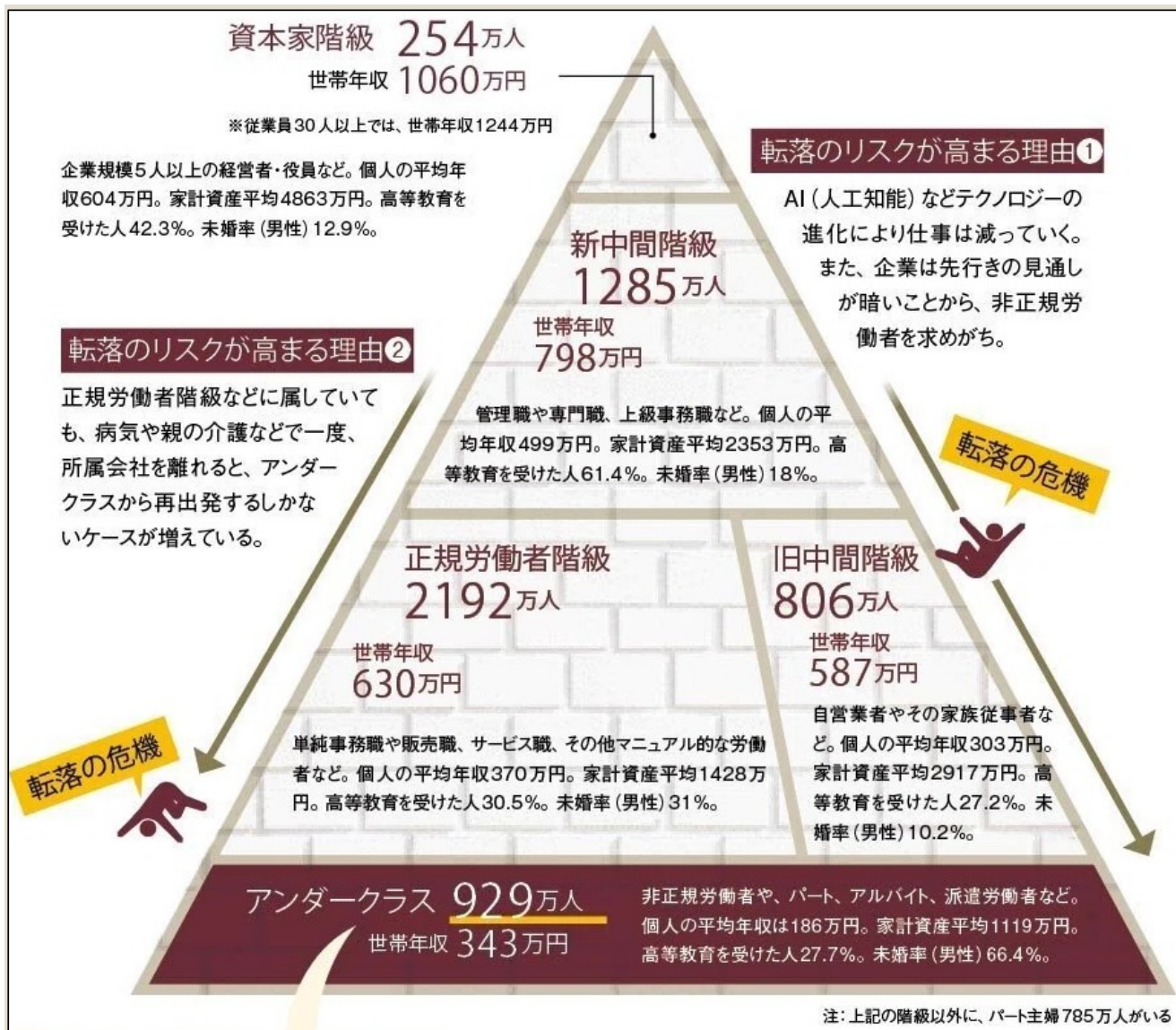


見えてきた危機的な未来 ——

これが
リアル
日本の現実だ!

もう後戻りできないのか?

講談社現代新書



橋本健二 2018 『新・日本の階級社会』

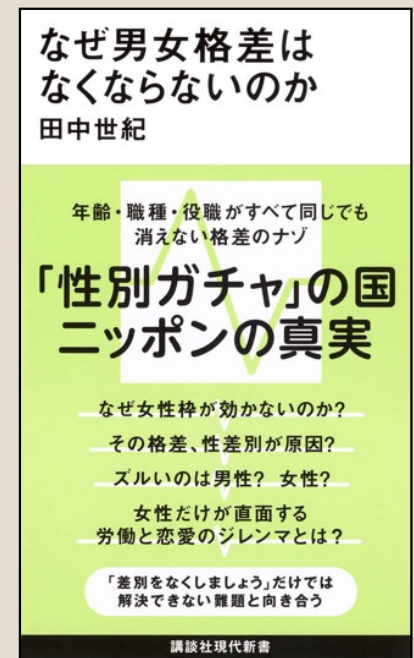
4-3 ジェンダーギャップ

「もし生まれ変われるとしたら、あなたは、いつの時代のどの国で生まれ変わりたいですか？」

これはオランダの大学で働いている私（田中）が、初回授業で学生の緊張を和らげるために聞く質問である。ただし、質問には以下の前提がつく。

1. 生まれ変わったときの性別はわからない
2. 生まれ変わったときの人種はわからない
3. 生まれ変わったときの親の職業や収入はわからない

田中世紀 2025 『なぜ男女格差はなくなるのか』



学生たちの回答

多くは、現在の北欧のどこかの国、たとえば「スウェーデンに生まれたい」と答える。「今の日本に生まれ変わりたい」と答える人は非常に稀である。なぜ多くの学生は北欧に生まれたいと思うのだろうか。

答えは簡単である。北欧に生まれたほうが性別や性的指向、そして人種による差別が少なく、親の収入や職業による貧富の差もあまりなく、総じて幸せに暮らしていけそうだからだ。そして、いまの日本にまったく逆のイメージを持っているらしい。日本は知っていても、生まれ変わりの場所として選ばれない。「生まれたときの境遇によっては、その後の人生が難しくなりそう」と思われているようだ。

ジェンダーギャップ指数

ジェンダーギャップ指数

世界経済フォーラムの『Global Gender Gap Report』

ジェンダー格差の是正達成度を以下の4分野で評価、その総合スコアを指数化したもの（完全不平等 0 ↔ 1 完全平等）

1. 経済：労働力の男女比や同一労働での賃金・収入格差など
2. 教育：識字率や初等教育就学率など
3. 健康：出生時の性別比や平均寿命の男女差など
4. 政治：議会や閣僚の男女比など

オランダ、北欧、日本 (2025)

1位	アイスランド	.926
2位	フィンランド	.879
3位	ノルウェー	.863
4位	英国	.838
5位	ニュージーランド	.827
6位	スウェーデン	.817
7位	モルドバ	.813
8位	ナミビア	.811
9位	ドイツ	.803
10位	アイルランド	.801

42位	米国	.756
43位	オランダ	.756
44位	ブルンジ	.756
101位	韓国	.687
102位	チェコ	.686
103位	中国	.686
117位	アンゴラ	.668
118位	日本	.666
119位	ブータン	.663

隣国

アイスランド

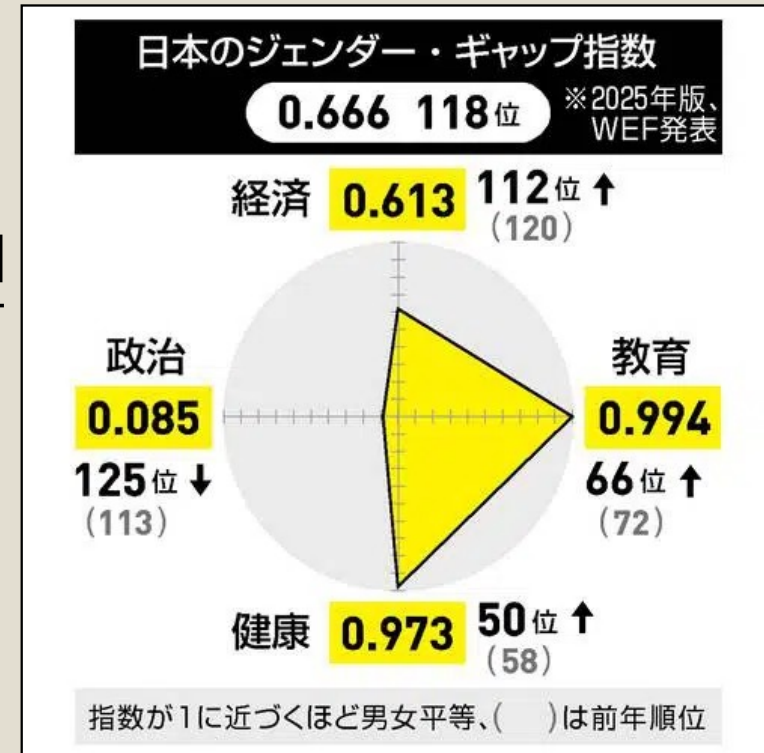
- ジェンダーギャップ指数
16回連続1位
- 「女性の休日」 *ポスト1975
1975年10月24日
全アイスランド女性の9割が仕事や家事を一斉に休み、アイスランドを変えた。
日本版：3/6 (金)～8(日)
主催：日本版女性の休日アクション実行委員会 (wan.or.jp/)



国会議員63人中30人が女性（写真はアイスランド国会議事堂）

解説

- 日本は2006年の調査開始以来、当初の .645とほとんど変わっていない（当時は79位でイタリア並）。その後、他国の平等が進み、日本の順位は漸次低下（イタリアは2025年 .704）。
- アイスランド、ノルウェー、スウェーデンなどヨーロッパ諸国は教育分野と政治分野のが小さい。
- ギャップ値は概して高所得国で小さく、低所得国で大きい。



「G7最低、政治で後退」と報じる『デーリー東北』から

ジェンダーギャップの国内差

「地方女子プロジェクト」

このプロジェクトを立ち上げたのは、私が地元での就職活動で女性差別を目の当たりにしたことです。地方・女性であることで選択肢が狭まる社会（ジェンダー・ギャップ）を変えたい。当事者の声を集め、そこから地域の在り方を見直すことが「地方の女性流出」を解消すると信じています。

代表：山本蓮（1999年、山梨県生まれ）



プロジェクトの方法

インタビュー調査

対象者の条件

- 15～39歳
- 地方出身ないし地方在住であること
 - ずっと地方在住、地方から上京、地方へ移住
- 女性であること（トランス女性を含む）

インタビュー調査の実施概要

- 対面ないしオンライン (zoom)、40分程度
- 質問事項
 1. 年齢、職業、居住形態、家族構成、趣味・ふだんの過ごし方
 2. 地元在住/転出の理由（進学や就職の決め手となった要因）
 3. いま住んでいる場所や地元のイメージ（エピソードも含む）
 4. 5年後、10年後、いまの場所にいたいと思うか、その理由
 5. 次世代に引き継ぎたくない社会慣習やルール
 6. 居住地/地元の生活で困ったことや物足りなかったこと
 7. こんな居住地/地元であってほしい

上野千鶴子・山内マリコ 2025 『地方女子たちの選択』

研究対象者と方法

- 富山県に縁のある20～60代の女性14名
 1. 富山にとどまった人
 2. 富山から出ていった人
 3. 富山に戻ってきた人
 4. 富山にやってきた人
- ライフヒストリーインタビュー（共通質問）
 1. 仕事と育児の両立
 2. 三世代同居
 3. 実家の相続



4-5 最近の研究例

知念 渉(編) 2025 『東京で育つ／育てる』

東京都区内に住む高校生と、その母親への調査研究（東京＝教育の市場化が進んでいる場所）

- 対象者の社会的地位＝家庭の保有資本
 1. 経済資本
 2. 文化資本
 3. 関係資本
- 「生き方」にもとづく対象者の群分け
- 混合研究法の採用



調査対象者の群分け

「生き方」 = 小熊英二『[日本社会のしくみ](#)』

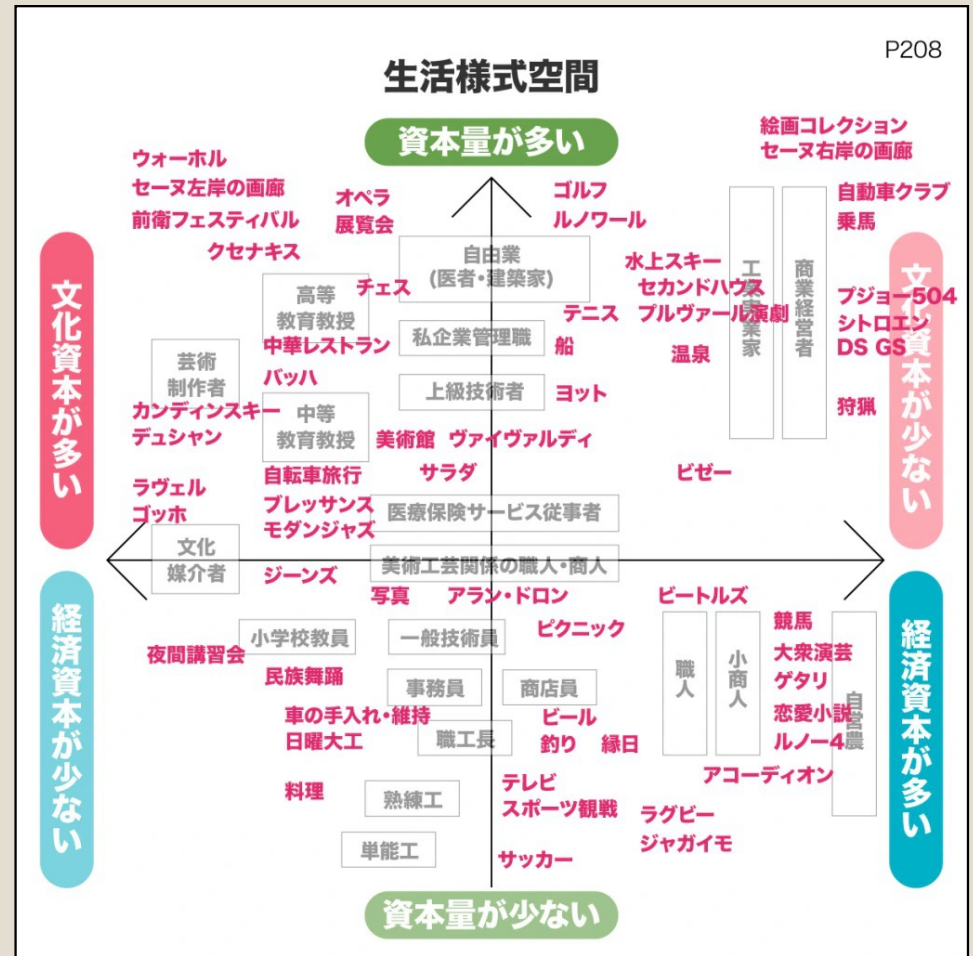
1. 大企業型：大卒、大企業や官庁で働く人とその家族、職場に帰属
2. 地元型：地元から離れない家族、地域に帰属
1にくらべ賃金は低いものの、地域のつながりが豊かだったり、家や土地といった不動産を相続できたり、という強みがある
3. 残余型：1と2それぞれの不利な部分を集めたようなタイプ、職場にも地域にも帰属しない

混合研究法の採用

「私たちは質問紙調査から特定したその人の社会的位置（右図=ブルデューの社会空間*）と回答をふまえてインタビューに臨んだ」。

「実際にインタビューを行うと、なるほど、そういうことか、と腑に落ちることが何度もあった。それは仮説通りの話が聞けた場合だけでなく仮説に反することが語られた場合でも同様だった」。

（まえがきから）



トリイデザイン研究所

4-6 歴史を知る

私たちは今どこにいるのか、その「今」を知るために。

安岡健一 2025『戦後史 1945-2025』

○戦後史における重要な変化

1. 帝国と植民地

2. 都市と農村

国内格差

3. 家族とジェンダー

「個人化」の進行（2020年⇐1980年の数値）

（50歳時の未婚率：男性28%⇐3%、女性18%⇐4%、単独世帯38%）



⑤ ライフコース研究への期待

1. ジェンダーギャップに注目した研究
2. 就職氷河期世代やコロナ世代を対象とする研究
3. 東日本大震災者を対象とする研究
4. 研究成果が政策提言を支える研究
 - 人生移行期の危機は長引き、なかなか過去になってくれない
 - 人生の不利な帰結を個人の能力や努力に還元させない
 - 人の適応能力には限界があり、個人の資本を保証する
5. 発達に関する研究の時代や社会の枠組みに沿ったメタ分析

⑥ まとめ

いま日本で研究するとしたら

1. 大恐慌に相当する歴史社会的出来事、大恐慌世代に匹敵する世代を特定する
2. 下位群の構成枠組みを考える
3. リンケージモデル (独立変数→媒介変数→従属変数) を考える
4. 利用可能な遡及データの所在、既存データの活用方法をさぐる
5. 混合研究法を活かす
6. 自力ではどうにもならない環境 (親ガチャ、ジェンダーガチャ) を補償する仕組み (介入 = Developmentの「開発的」側面) の提案につなげる

『大恐慌……』で印象に残っている言葉

- 縦断研究といえども、もとよりその人を完全に理解することはできない。たとえ関連する疑問のすべてを解く方法を知ったとしても、ある個人の重要な経験をすべて監視し、チェックすることはおそらく不可能だろう。〔初版のクローセン序文から〕
- 兵役はしばしば結婚や高等教育の新たな選択肢となった。軍隊動員で、男性は結婚相手に出会い、技能訓練や高等教育の道が開かれた。これらの発達経験に関連して復員兵援護法の提供する教育機会があげられる。……それまでの社会経済的出自とは無関係に高い職業地位、職と経済の安定を高めた。しかし彼も強調するように、こうした機会拡大に戦争は不要だ。〔記念版のブロンフェンブレンナー序文から〕

番外 『完全版……』 刊行その後

1. 訂正とお詫び➡366ページ図13右列 上から3項目「人生回顧、自伝的記憶」を削除してください。訂正してお詫びします。
2. 邦訳文献の追加➡378ページ真ん中あたりで引用されている非行少年研究が『Crime in the Making』となって1993年に刊行、昨年その邦訳『犯罪へ至る道, 離れる道』が出ました。同書は『大恐慌……』、McAdamの『Freedom Summer』(1988年)*に続く三大縦断研究の1つです。*1960年代の米国公民権運動にかかわるボランティア応募者のその後を追った研究。
3. 書評➡柴内康文 2024『社会心理学研究』40巻1号, 49ページ



ご清聴ありがとうございました